

西南学院大学 図書館報

No. 74

昭和52年11月10日発行

〒814

福岡市西区西新6丁目

西南学院大学図書館



“兼任生活4か月目を迎えて”

図書館長 八 木 幹

先頃、シェイクスピア学会が東北大学で開催され、仙台に出張した。広々とした秋の大学構内を、早めに会場に向うと、附属図書館が一きわ目立つ。この7月以来の、一種の職務上の義務感にかられ、性来の無精を押しつけ、学会開始前のひとときを参観することにする。

受付で理由をつけ、入館すると、厚いじゅうたんを敷込んだ快適な空間ホールが直ちにせまってくる。思いきって空間を調理した、実に大胆なデザイン、豪華で気品のある、静かなたたずまいに思わず息をのむ。優に一流の劇場に匹敵するぜいたくなじゅうたんを踏むと、それだけで心のゆとり、ゆたかさを感じる。ゆっくりとその上を歩くと、自ずと知識の館への畏敬がわきあがってくるようだ。精神の集中を最高度にもたらし、その完全燃焼と創造の結晶作用を実現するためには、時に社会は、惜しげのない散財を前提としなければならぬのであろうか。ふと、10年前、1年近く居住したイギリスの学都の風物が目にうかんでくる。自然の色彩、空間の広大さと歴史を秘めた壮麗な伽藍は、厳しい知的創造の場であって、むしろ自明の風景かも知れぬ。幻想からさめた外来者の羨望の視線は、やがて勤務先の大学、そして図書館へと想がうつる。

本学の現在の図書館が建設され、9年経過する。当時の『大学広報』を開くと“新図書館”にこめられた様々な期待と誇りが関係者によって熱っぽく語られている。(広報4号43.10.11)

この間、時の推移に、当時の松の緑も、次々に飛躍する学院の必要にせまられた施設計画のために、次第に、かつての屈強の松の威容、おそらくは潮風にも十分堪えぬ強い強靱さを失い、コンクリートでかためられた舗道とひしめく建物の中に、野性味を奪われて、さながら植え込みの松へ

と変容してきたようだ。残された松の中には、仲間が時に松喰い虫に、時に強風に倒され、或る日突然片づけられ、消えていくのを目撃する。

この6月の役職改選の結果、7月以来、図書館の責任者を兼ねることになった。司書長以下多くの専任館員が、日常業務に懸命に従事している職場に、教職と兼任で管理責任の一端を負担するようになり、ひたすら、その意味を考えあぐねている間に、夏の休暇は飛散した。執務室で、懸案事項を検討しながら、自ら参画し、打開し得る局面の解明に、“下手な考え”にふける毎日であった。

大学図書館をとりまく周辺は、緑の空間が日に日に後退し、もっぱら機能的に、すべてがコンパクトにまとめられ、無駄なく(そしてそれ故にこそ、当に有用な)敷地は、それこそ街頭で失ったコンタクト・レンズを捜すのにも似て、発見が困難であり、大学の東のはずれに位置する図書館から、公道をへだてて西の一角に位置する西南会館にかけて、昼間人々の行き通う構内のコンクリート舗装は、さながら市井の道路の観を与える。

夜間開館の実現を、具体的困難さを承知しながら、真剣に検討し始めたのは、夏の盛りの季節であった。体育会、学文会が課外活動の場をそれぞれ体育館、西南会館を中心に、その成果を誇示しているとき、大学の研究、学習の公的な場は昼間に限られてよいものであろうか。

所詮は、外国文学を専攻する一教師が、懸命に図書館業務に関与しても、見当はずれの着想、ドンキホーテの突進に終始するだけである。関係方面の理解と協力で実現した夜間開館実施後1週間、今日も、借りものの猫のように、そっと館長室の扉を後に、狭くて、乱雑な、しかし気がねのない研究室に足を向ける。(52.10.22)

待望の“夜間開館”実施さる

—— 年間を通じ、午後9時まで ——

司書長 刀 根 淳

長年の懸案でありました大学図書館の“夜間開館”が、昭和52年10月17日より実施されたことは、研究・教育の場である大学にとって、重要な意義をもつことは云うまでもありません。

“夜間開館”——正式には、開館時間の延長——として、従来午後7時（試験期は午後9時）まで、1階学習室のみを開けていた、いわば中途半端な“夜間開館”が、このたび利用者にとって、閲覧室の利用および図書借出可能の昼間と同様の利用効果の大きい利用が、午後9時まで出来るようになったことは、正に研究・教育に対する大学の姿勢を端的に象徴したものとして高く評価されるべきものと思われます。

利用者にとって、その利用時間の増加は、必ずや研究、学習効果の増大に直接つながることはいうまでもないことであります。

現に“夜間開館”実施後10日を経た今日（10月26日）までの利用状況は、従来学習室の午後7時閉室間際の利用者数5、6名に比較して、午後7時20～30名、午後9時閉館直前の10名前後に増加したことは、すでに明らかに利用者増加の傾向を示しています。

このたびの“夜間開館”の特徴は、年間を通じ、原則として午後9時まで、1階学習室を除く全館を開館するものであり、しかも図書館でいう通常開館日のほか、試験期は勿論のこと、休暇中を含めて月～金曜に土曜日をも、すべて午後9時まで開館し、これに従事する職員は、従来の昼間勤務者の残業勤務によるものではなくて、夜間勤務者2名によるという徹底した、密度の高い“夜間開館”であります。

従って「西南学院大学図書館」は、“休業日を除き、常時9時まで開館”という一つのパターンを制度化したものといえます。今回の開館時間を、従来のそれと比較しますと、別表のとおりです。

	形態別開館	従来の2, 3, 4, 5階閲覧室	今回（夜間開館実施）の2, 3, 4, 5階閲覧室
開 館 時 間	①平日	9:00—18:00	9:00—21:00
	②土曜日	9:00—18:00	9:00—21:00
	③試験期	9:00—18:00	9:00—21:00
	④休暇中	9:00—17:00	9:00—21:00
	⑤休暇中の土曜日	9:00—12:00	9:00—21:00

（注）1階学習室は、夜間開館実施の対象場所とすることは、徹底した夜間開館をおこない得ないとの観点より、昼間のみ（8:45—17:15）開室します。

前述のとおり、この“夜間開館”実施により、利用者は漸増していますが、この“夜間開館”が教職員、学生、特別利用者に浸透、定着することにより、年を追って着実に利用者が増加するものと予測しております。

勿論、単に開館時間を延長することだけが、利用者増をもたらす理由と受けとめないで、諸資料の充実、整備は勿論のこと設備、備品面での利用条件の改善、サービス業務の拡大等にも意を払うことにしております。例えば、今夏2階閲覧室、ロッカー室および5階（一部）に冷房装置を設置したことにより、冬期暖房、夏期冷房の快適な館内利用が楽しめるようになったことや、複写機の増設などがあげられます。

この年間を通じての午後9時までの“夜間開館”実施は、夜間学部のない大学図書館における画期的なものというべきものであり、今後の帰趨は十分注目されるだけに、その目的達成のため、果敢に取り組んでいきたいと念願しています。

（付記）西南学院大学図書館の概要（神学部分館を除く）

1. 利用対象者（昭和52.10.1現在）
教職員 281名
学 生 7,916名（本学は昼間学部のみ）
2. 施設
本館5階建（昭和43年建築） 積層式書庫7階層
総面積 5,866㎡ 全座席数約600席
3. 蔵書冊数 273,000冊（昭和52年3月31現在）
4. 年間受入冊数 約16,000冊
5. 図書館職員数
専任19名 嘱託・アルバイト5名 計24名
6. 図書館資料費年間予算72,000,000円（昭和52年度）
7. 機械化業務の一部実施（逐次刊行物の受入・管理）
8. 本学図書館内に、「西南学院大学国連寄託図書館」を併置。

「図書館とわたくし」

西南学院学院史編集室長 田 口 欽 二

図書館との関係は、悲しい思い出のうちにはじまる。言語障害のために人間恐怖症に落ち入っていたわたくしは、九大の総合図書館で借りた医学書によって、懸垂垂破裂という否定することのできない自分自身の現実を知った。暑い日ざしの図書館の屋上で、ひとりとてもなく涙した日のことを思い出す。

九大を卒業して母校西南学院図書館に勤務。まもなく第二次世界大戦後再開された神学科での、図書館の再建が任務となった。図書の整理に不可欠なのは、「分類法」である。日本では『日本十進分類法』（NDC）が一般に使用されている。ところが、NDCでは、キリスト教図書の分類が粗雑であり、NDCの基礎になっている『十進分類法』（DC）は、キリスト教以外の宗教図書の分類には不適當であった。分類法を通して、西洋文明と東洋文明の開きを痛感した。そこでNDCを基本分類法とし、キリスト教部門のために特殊分類法を作成した。10年後の昭和37年、“The Decimal Classification of Theological Books.”（『神学関係図書十進分類法』）（第4版）を出版した。これは、現在も日本におけるキリスト教関係図書の代表的な分類法として役立てられている。

孤独な生活の中で性の悩みは人一倍深刻であったが、唯一の友であった『聖書』は、わたくしに「割礼」という文字を教えてくれた。神学科図書館での2万冊を越える図書の中から割礼に関する記事を選び出すことは、最大の喜びとなった。割礼について一応の考えをもち発表しはじめたのは、昭和27年のことであった。幾度も改訂した後、『聖書はセックスをどう考えるか——割礼を中心として』というテーマで、昭和49年に自費出版した。最初の計画から23年の歳月が流れたことになる。世界の主要な国立図書館や大学の日本研究部門に献本した。またそれと並行して、割礼と密接な関係をもつ「洗礼」に関心を持ち、その文献目録を作成した。“The Chronological Bibliography on Baptism, A. D. 1—1966.”（昭和41年）がそれである。大英博物館などに保存されている。いずれもこの分野で世界唯一の総合的な著作となっている。

これらを発表した時、「どのような方法で作るのか。」と問われたものである。わたくしは、第一步を百科事典からはじめることにしている。それも一般的なものから特殊のものへ。これらは、それぞれ専門の学者が簡潔にはあるが総合的に説明しているので、初心のものには役立つ。特に重要な文献が挙げられていると、大いに助かる。その文献を手がかりに、次の文献に移って行けるからである。さらに、学問AとBとC……との関連性となると、多年たたき込まれた分類法の理論に従って、

わたくしの頭の中で無意識のうちに巧妙に結合されて行く。

言語障害の治療には、医学・言語学・心理学・教育学・社会福祉学などを含む総合学を必要とする。昭和30年「精神医学上より見たる言語障害」（教育と医学の会）、「言語障害の日常生活に及ぼせる影響について」（『教育と医学』）を発表した。割礼研究も、聖書学・キリスト教史学・宗教学・民族学・民俗学・性科学・教育学などを含む総合学を必要とする。言語障害にはじまった自己探究の道は、割礼を究明する際にも遺憾なく発揮され、学問間の障壁は易々と破られて行く。

現在、割礼に関しては、昭和40年に「割礼の世界史的意義」（キリスト教史学会）、51年に「割礼と無割礼——人類6000年の歩みの中で」（日本基督教学会）を発表。キリスト教史・教育史関係では、昭和51年に「神は日本を選んだ——エデンから日本まで」、52年に「1980年代における日本の教育——主として大学教育理念の歴史的原理的考察」（以上世界平和教授アカデミー）を、また、50年に「ヨーロッパ的キリスト教とアジア的キリスト教——統一協会を中心として」、52年に「ヨーロッパ的キリスト教とアメリカ的キリスト教——ものみの塔を中心として」（以上日本基督教学会）を発表。西南学院史関係では、昭和49年に「本学創設の歴史的意義」（『西南学院大学広報』）、51年に「西南学院年表」（プリント）、52年に「西南学院開学の史的背景」（『西南学院60年のあゆみ』）を発表。研究領域は、ヨーロッパのキリスト教が無視ないし軽視してかえり見なかった割礼を中心に、キリスト教を超え、宗教史・教育史・文明論へと無限に広がりつつある。

言語障害のために、学制上、公立の中学校に行けずに私立の西南に入り、一般社会に就職できずに西南の図書館に勤務したわたくしは、必然的にキリスト教と関連した総合学・学際的学問の道を歩むことになった。今では「6000年にわたる神による救済の出来事を一般歴史の流れの中に読みとる」（『攝理斜行史観』の発見）という無上の喜びがある。大学卒業後28年にして、やっと学問への第一歩をふみ出したとすることができるのであろうか。「少年老い易く、学成り難し」である。

本学に学ぶ諸君が、大学在学4年間に、図書館の存在意義を理解し、それを活用して、「生涯にわたって学問をする」ことの意味を十分に体得して下さるよう、心から願ってやまない。それは、国家・全人類のためであるとともに、何よりも自分自身のためになると思うからである。「汝自身を知れ」、そこからすべての学問がはじまる。（おわり）

☆ ニュース・お知らせ ☆

＜研修・出張＞

- ・福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会
第1回 研究会 S.52.7.14 於：筑紫女学園短大
出席者：今永係長・松本・板谷・香川
- 第2回 研究会 S.52.10.13 於：筑紫女学園短大
出席者：府川・首藤・山口
- ・昭和52年度私立大学図書館協会総大会・研究会
S.52.7.21～23 於：東海大学
出席者：八木館長・刀根司書長
- ・昭和52年度九州地区著作権講習会
S.52.9.13,14 於：宮崎会館
出席者：刀根司書長
- ・昭和52年度全国図書館大会
S.52.9.28～30 於：大阪・京都
出席者：杉本課長補佐
- ・私大図書館協会昭和52年度九州地区協議会および研究会
S.52.10.7 於：福岡大学
出席者：品川・金子・与田・大熊
- ・昭和52年度国連寄託図書館会議
S.52.10.6,7 於：東北大学
出席者：今永係長
- ・大阪大学電算業務見学研修
S.52.11.7 於：大阪大学
出席者：杉野
- ・昭和52年度大学図書館職員講習会
S.52.11.8～11 於：大阪大学
出席者：杉野

＜新館長及新図書館委員紹介＞

館 長

八 木 幹 (任期 S.52.7.1～54.6.30)

図書館委員

神 学	関	谷	定	夫
英 文	片	岡		章
仏 語	末	松		寿
商 学	山	口	稻	生
経 済	山	村	延	昭
法 学	河	島	幸	夫
教 養	森		泰	男

(任期 S.52.7.1～53.6.30)

＜図書館委員会＞

昭和52年7月7日

昭和52年9月5日

昭和52年9月29日

＜館内人事異動＞

昭和52年10月1日付

閲覧係：倉光・大塚・服巻
庶 務：会計係：原田
受入係：荒川・篠崎・大熊
整理係：和漢書一杉本・首藤・板谷・山口
洋 書一品川・金子・与田
資 料・国連係：今永・杉野・府川・松本・香川

＜臨時職員採用人事＞

夜間開館要員として下記2名を採用。

武 末 悉 昌 昭和52年10月17日付。

梅 津 健 吉 昭和52年10月17日付。

＜行 事＞

昭和52年度私大図書館協会秋季西地区部会を11月11日(金)に本学において開催。出席者95名。

告知板

○大学祭期間中の開館時間

11月9日(水)～12(土) 9.00～21.00

○冬休長期貸出

12月15日(水)～1月7日(水)

冊数 学部学生 5冊以内 別科生10冊以内

※12月15日以降は1月18日(水)が返却期限になります。

○冬季休暇中の開館時間および休館日

12月26日(月) 9.00～21.00 開館

27日(火) 9.00～12.00 開館

28日(水)～1月5日(木) 年末年始休館

1月6・7日(金・土) 9.00～21.00 開館

9日(月)より平常開館 8.45～21.00

○特別貸出について

卒業年次生は卒業論文作成のための特別貸出を受けることができます。通常の貸出のほかに3冊以内、期限は1カ月以内です。

大学院生(博士・修士)は、図書5冊の特別貸出を受けることができます。期限は、2カ月以内です。

○卒論の閲覧手続きについて

卒論作成の参考のため、図書館に保管されている諸先輩の卒論をゼミ担当教授の承認を経て閲覧することができます。希望者は予め受付で用紙をもらってください。なお、館外貸出はできません。請求番号は3階の目録カード(ゼミ別に配列しています)で調べてください。